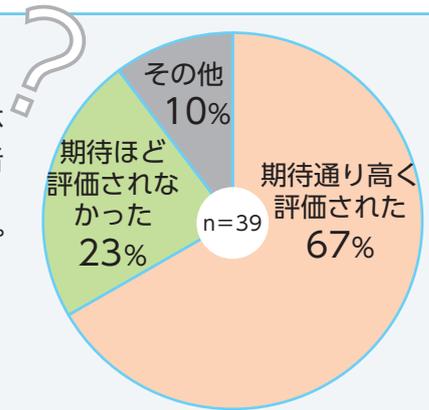




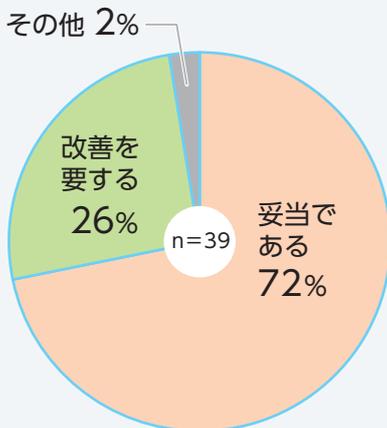
ファイナリストの声

貴団体がファイナリスト賞を受賞したことへの周囲の反応は

- ・グループ内の環境委員会 (ISO 関係) で受賞をアナウンスしました。低炭素杯についてこれまで認知度がなかったので、すこしでもPRするつもりで関係者には宣伝しました。
- ・社内への周知が不足していましたが、下記ニュース内容が社内LANにアップされ、このところ評価されつつある。
- ・地方紙で4段抜きの記事となり、話題を呼んだ。
- ・社外にはさほど告知していないが、エコ活動の協力会社からは賞賛された。



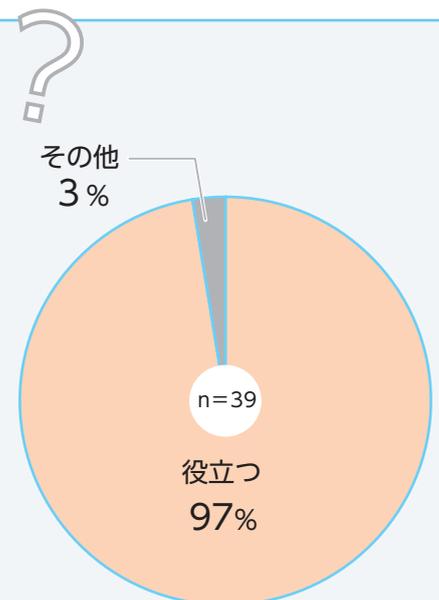
プレゼン(発表)の演出ルールについては(時間、音楽、会場の制約など)



- ・パワポだけのプレゼンだと飽きてしまうが、寸劇などを取り入れることで、バラエティに富んでよかった。
- ・プレゼン時間について長いに越したことはありませんが、団体数を考えると妥当な時間。自分たちの活動について十分紹介でき、聞いている人も疲れない、程よい時間だと思います。
- ・出場団体数を絞って、発表時間を長くした方が良いと思います。
- ・4分は短すぎるのでは?と当初は考えていましたが、聴く側にまわってみると、飽きずに聴くことが出来る丁度良い時間だと思いました。
- ・制限がある方が、団体毎のより良い工夫が出て良いと思います。
- ・演出に関しては、明確なルールを作って不公平の無いようにお願いしたい。
- ・4分で納めるのも実力のうち。確かに短い時間でしたが、その中でいかに伝えるかを考えることは、大変に勉強になりました。

今回の低炭素杯の出場は、貴団体の今後に役立ちますか

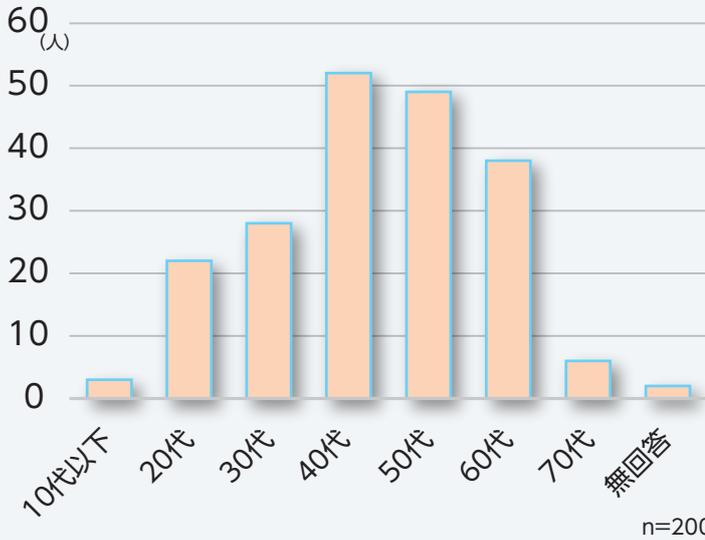
- ・温暖化防止を考える素晴らしい大会だと思います。出場することにより他の団体の取り組みを知ることもでき勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。子ども達が一生懸命環境を考えて取り組んでいる姿には涙を流しながら拝聴していました。
- ・参加できる人数も限られるので首都圏の大勢のプレゼンのチームが少々羨ましかったりもしましたが、他の方のプレゼンなど非常に勉強になりました。
- ・このようなことを子どもの頃から興味をもってもらうために、何か施策が必要ではないかと思います。出場している子どもたちにはとても感心しますが、世間の子供達が意識しているかということに疑問です。大人が伝えていく責任を感じました。
- ・プレゼン動画の配信という方法もユニークで面白いものでした。視聴した関係者まで「今回で初めて全容が理解できた」といった声も多く、協力ムードも一層高まり、出場した甲斐がありました。
- ・プレゼン動画視聴が「審査に反映する」ということで、自分たちの発表を見てもらうために「審査に係わるの！見てね！」と言いやすかった。



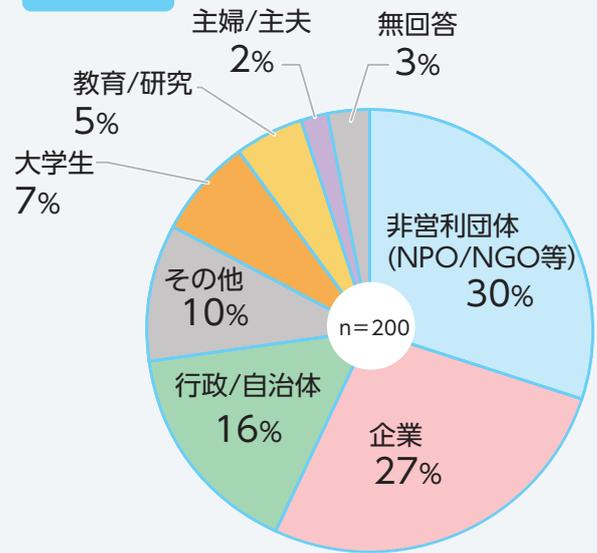


来場者の声

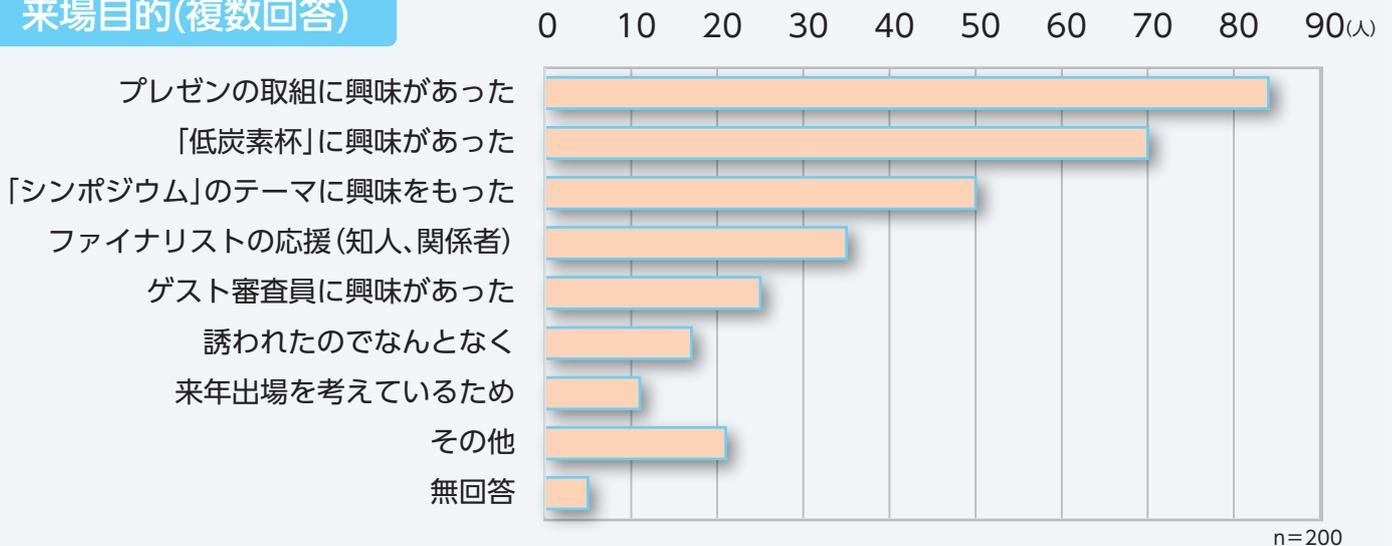
年代



属性



来場目的(複数回答)



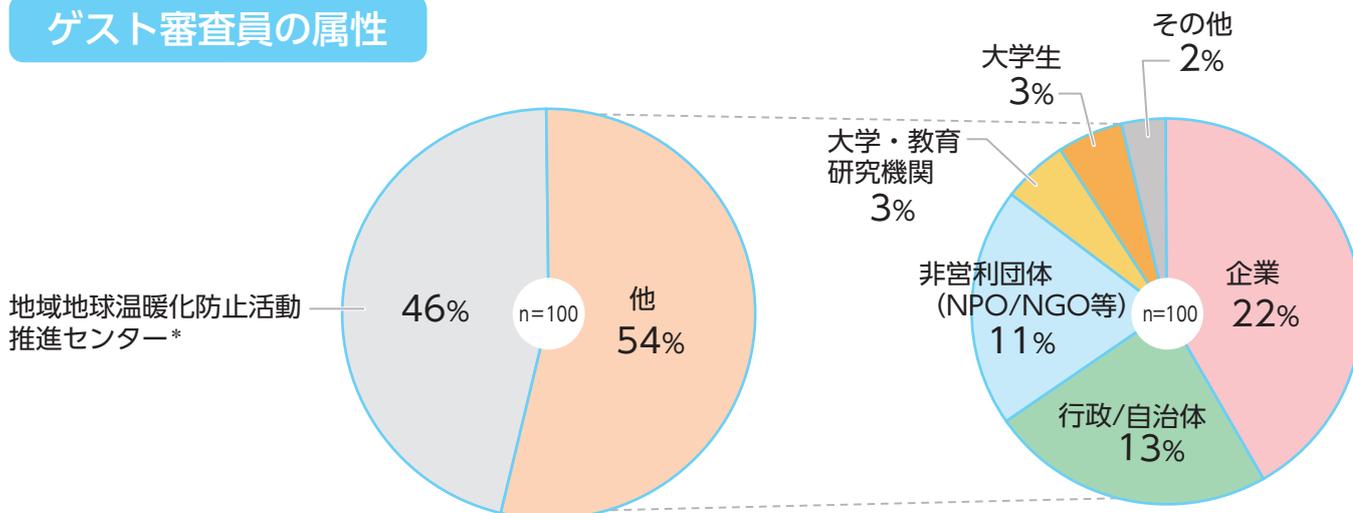
感想

- ・数少ない全国の低炭素活動のトップランナーが集えるイベントです。2020年まで継続いただくと嬉しいです。
- ・プレゼン時間を4分→5分で、ファイナリストは30団体程度がいいと思います。
- ・特別シンポジウムはとても短い時間に思われた。行政の縦割りを改めて地域主体で市民と一緒に防災を含めていくことの大切さを学んだ。たくさんの報告ありがとうございました。
- ・ロビー展示がより充実すると、活動の普及啓発、団体PRにつながり相乗効果があると思う。
- ・みなさん工夫され意欲的に取り組まれ、感心しました。参考に取り組みたいと思います。
- ・様々な取組が見え、大変参考になりました。低炭素社会実現まで頑張ってくださいたいです。
- ・自治体でCO₂削減を市民に訴えています。しかしながら関心は高いですが、行動にはなかなか結びつかない。意識の高い市民は高齢化する一方で若年層に広がらないのが悩みです。ヒントを探しに来場しました。



ゲスト審査員の声

ゲスト審査員の属性



*「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、各都道府県知事や政令指定都市等市長によって指定されたセンターです。地球温暖化防止に関する啓発・広報、活動支援、相談、調査・研究、情報提供等を業務としています。

100人のゲスト審査員と全国の視聴者が選んだ「オーディエンス賞」を新設！

より多くの方に全国のトップランナーの取組を見ていただき、観客の視点から低炭素な取組を評価していただこうと、温暖化対策に関わる専門家や従事者の方々100名に「ゲスト審査員」となっていただきました。

※ゲスト審査員は中学生以上（ファイナリスト関係者除く）

(審査方法)

- ・100名のゲスト審査員が2月13日(金) 12:30～17:00のファイナリスト全39団体のプレゼンテーションを全て見て審査。
- ・全プレゼンテーションから、“低炭素活動”として最も感銘を受けた取組2団体へ投票。
- ・当日19:00～プレゼンテーション動画をネット配信、翌日8:00迄の視聴回数に応じた審査ポイントを加算。
- ・得票数上位2団体にオーディエンス賞を授与。

感想 ◀

- ・小学校から大企業まで幅広い団体の取組を一度に見ることができ、他にはない機会だと思います。また高校生の発表に科学的イノベーションを目指したものが多く驚きました。
- ・大変面白かった。CO₂削減活動がこんなにも全国的に幅広く様々な形で行われていることに驚いた。子供にも聞かせたかった。
- ・どの団体も分かりやすく工夫されていて素晴らしかったです。YouTubeを使うのもユニークでいいですね。とても楽しかったです。
- ・事務局より声をかけていただき、ゲスト審査員として参加させていただきました。これまで低炭素杯に興味はあってもきっかけがなかったため、とても良い機会となりました。
- ・学生さんの報告発表のレベルが高いと感じた。それぞれの視点からの取組だったので、評価点数に差がつけられない。地域に広がる活動をこれからも期待したい。
- ・たくさんの素晴らしい取組があり審査がとても難しかったです。この中、特に持続可能、波及効果に重きを置き決めました。みなさん工夫をこらした発表方法でとても楽しく勉強させていただきました。

オーディエンス賞得票上位5団体

順位	団体名	所在地
1	静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ	静岡
2	上根来里山再生プロジェクト	福井
3	京都府長岡京市立 長岡第四小学校	京都
4	ごみじゃぱん	兵庫
	ファインモーターズスクール	埼玉

アンケートより一部抜粋